

山口県病院協会 会報

2019 **10月号** No.65

- 発行日 令和元年10月1日
- 発行所 一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- 発行人 三浦 修
- 印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ <http://www.yha.or.jp>



光市立光総合病院

〒743-8561

住 所 光市光ヶ丘6番1号

電 話 0833-72-1000

F A X 0833-72-6018

U R L : <http://hikari-hosp.jp>

CONTENTS (目次)

会員病院紹介.....	2 ページ
協会役員コーナー.....	3 ページ
病院スタッフコーナー.....	4 ページ
研修会報告.....	5 ページ
事務長部会コーナー.....	6 ページ
後援する集会等のお知らせ.....	6 ページ
諸会議報告.....	7 ページ
お知らせコーナー.....	8 ページ

会員病院紹介

病院長挨拶



光市立光総合病院
病院長

桑田 憲幸

当院は昭和26年（1951年）10月に光市民病院として開設後、平成に至るまで光市虹ヶ浜の海岸沿いに立地しており、近年では老朽化・狭隘化（きょうあいか）が進み、平成26年9月に光総合病院移転新築整備基本計画が市議会で可決され、平成29年（2017年）7月起工式、平成31（2019年）年2月28日竣工し、令和元年（2019年）5月1日開院致しました。光市・光市議会・光医師会・山口大学、その他多くの皆様のご理解、ご支援のたまものと篤く感謝申し上げます。光総合病院移転新築整備基本計画が考えられ実施された2010年代は平成23年（2011年）東日本大震災をはじめとし、ほぼ毎年大規模な自然災害に見舞われた年代であります。平成30年（2018年）7月豪雨では光市も被害に見舞われました。当院は「良質で安全で心温まる医療を提供し、地域の皆様に信頼される病院づくりに努める」と言う理念を掲げておりますが、私たちはそれに加えて地域の皆様だけではなく日本の被災された皆様への災害医療も提供したいという気持ちを旧光総合病院時代から持ち続けておりました。そこで病院新築にあたり、災害拠点病院の指定を受ける事を目標としてハードの面に対応できるような設計をお願いしました。耐震構造、災害時の患者数に対応できるスペースとして広い講堂を1階に設置、ヘリポートの設置等々を設計に盛り込んでいただき、ハード面では満足のいける病院となりました。ソフト面ではすでにDMATの保有、毎年大規模災害の訓練を行っており、今後災害拠点病院に指定される運営体制に対応できるように進めて行く所存です。

私、そして光市立光総合病院職員はこの新病院で、気持ちを新たに、これまで以上に地域の皆様に信頼される病院づくりに努めてまいります。

〈病院の現状〉

1) 概要

名 称	光市立光総合病院
開設者	光市長 市川 熙
第三者評価	財団法人日本医療評価機構 病院機能評価認定
住 所	山口県光市光ヶ丘6番1号
T E L	0833-72-1000
F A X	0833-72-6018
E-mail	hkr-gyoumu@hospital.city.hikari.lg.jp
U R L	http://hikari-hosp.jp
病院長	桑田 憲幸
診療科	内科・小児科・外科・整形外科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・婦人科・眼科・耳鼻いんこう科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科・精神科
病床数	210床 一般病床 161床 地域包括ケア病床 49床
関連施設	光市立大和総合病院、ナイスケアまほろば

2) 沿革

昭和26年10月	光市民病院として開設（84床）
昭和53年6月	光市立病院へ名称変更（150床）
昭和63年10月	総合病院光市立病院へ名称変更（200床）
平成16年10月	光市立光総合病院へ名称変更（210床）
令和元年5月	現在地に病院移転新築（210床）

3) 特徴

当院は昭和26年10月光市民病院として開設されました。開設当時は内科、外科、小児科の診療科で一般病床20床、結核病床64床の計84床の病院です。その後、幾度か名称を変更し、機能強化を図りながら、周南保健医療圏東部の一般急性期病院としての役割を担い続けています。このほど新しい元号「令和」が始まる5月1日に光市光ヶ丘に移転新築し、大規模災害を想定した医療活動スペースの確保やヘリポートの設置などを行いました。今後も地域の中核病院として「良質で安全で心温まる医療の提供」、「信頼される病院づくり」を理念に掲げ、地域の急性期医療を担ってまいります。

協会役員コーナー

医療における自己決定権について



総合病院
山口赤十字病院

病院長 名西 史夫

高齢の患者さんが増え、人工呼吸器装着や透析治療などを行うべきかどうか、また、中止するべきかどうかを決定することに困難を覚えることが多くなりました。いわゆるACP（アドバンス・ケア・プランニング：自分が、いざという時に、どのような医療・ケアを受けるかを前もって決めておくこと）が行われ、患者さんの希望が決定しているケースはまだ少数です。医療は、患者さんの自己決定権を最優先に、本人と医療者の共同意思決定により行われるべきとの米国式の考え方が今の日本では主流となっていますが、これと異なった考え方を紹介している記事がありました（日経メディカル 2019.3.20）。

ローマ教皇庁が主宰するパチカン生命アカデミーに出席した救急医の話です。欧州大陸の多くの国では、自己決定権よりも人の尊厳を最も大切に考え（人格主義）、意識があろうとなかろうと、また、死にたいと言っている人にも、人には尊厳があるのだから命を救う行為は当然と考えます。どのような治療を選択するかは主に医療者が考えるべきことであり、患者さんやご家族など医療の素人に判断を委ねるべきではなく、あくまで医療者の立場で十分に考え、患者さんの尊厳が最も保たれるように判断し、その結果をご本人ないしご家族に説明するべきだということです。

この考え方は、いわゆる父権主義（パターンリズム）であり、時代の流れに逆行しているように見えますが、日本、特に地方では馴染みやすいのではとも思えます。病状説明の時に、治療の様々な選択肢を一度にフラットに提示して選択してもらうことが患者さんやご家族にとって良いことか悪いことか、ある程度はオススメの治療法を示したほうが良いのではと自分の中では思っています。

大学病院の医師不足をどうしたら解決できるのか



医療法人玖玉会
玖珂中央病院

理事長 吉岡 春紀

「医師不足」問題が深刻になっています。医師数は毎年約4000人増えており、平成28年には医師数31.9万人、人口10万人当たりの数も251と少し改善し、現在の医学部定員数が維持された場合2025年頃にOECD平均に達する見込みとのことです。

大学病院の医師不足は、平成16年（2004年）に「臨床研修制度」が導入された結果とされています。それまで出身大学病院の医局を中心に卒後研修が行われてきたのですが、「臨床研修制度」では研修医が研修先の病院を自由に選択できるようになり、地方の大学病院より勤務条件の良い都市部の民間病院に希望が集中し、主に地方の大学病院が働き手の研修医を確保し難くなったのが原因です。制度発足当初から、将来地方の大学には医師が残らなくなり、その結果大学からの医師派遣に頼ってきた地域関連病院から医師が去り地域医療が崩壊すると危惧されていましたが、それが現実となってしまったのです。

地方自治体でも医師確保対策が検討されていますがその効果は現れていません。また医師不足という言葉は「医師偏在」という言葉に変わっています。どうしたら良いのか解決策はありませんし異論もあると思いますが、臨床研修制度を残しながら地方の地域医療崩壊を少しでも食い止めるために出来る事は、医学部を8年制として6年で医師免許取得した後、前期研修は出身大学で行う事にします。2年間は若い医師が大学に残り、その後出身大学に残る者も増えてくる可能性があります。出身大学に医師を増やすことを検討してはいかがでしょうか。

病院スタッフコーナー

「フットケア」は大切なコミュニケーションツール



医療法人光風会
岩国中央病院
看護部長

白銀 優子

看護職として、家庭と仕事を両立しながら勤務すること気が付けば30年以上が過ぎ、5年前より看護部長を務めさせて頂いております。更に、2009年よりフットケア学会フットケア指導士第1期生として、当院透析患者を主体としたフットケアを開始しました。当初はスタッフをはじめ、患者さんからも「フットケア」＝「足をきれいにする」と捉えられていました。フットケアの意義と目的は正しいケアにより健康な足を維持し、人が社会の中でその人らしく快適な生活が送れるよう援助する事です。足の血流、皮膚や爪の状態、セルフケアの状態、全身の状態についてアセスメントを実施し、ケアの実際を含め約1時間程度要することもあります。徐々に対象者の幅が広くなり1日平均3～5人、年間約600人以上のフットケアを実施しています。特に巻き爪、陥入爪、胼胝・鶏眼などは痛みを主訴で来院されることが多く、「あの痛みは繰り返したくない」と予防的ケアのリピーターが続出です。フットケア中、「ちょっと相談だけ」とフットケア以外の事を話され、それが治療に結びつき、行動変容に繋がることもあります。言い換えれば、フットケアに要する時間を、「大切なコミュニケーションツール」の一つとして有効活用しています。

これからも、フットケアを継続させる為に、次世代へ引き継がれるよう取り組んでいきたいです。

個別化（オーダーメイド）医療の時代に



独立行政法人国立病院機構
山口宇部医療センター
業務主任

薬剤師 宮川 貴行

「がん（悪性新生物）」は、1981年以来現在までずっと本邦の死亡原因の第1位の疾患であるとともに今後も患者数の増加が予測されており、その克服が喫緊の課題となっています。

従来、「がん」は臓器別、また病理学的な組織型別の分類で一括りにされてきましたが、近年は腫瘍細胞の遺伝子や表面形質などのバイオマーカーによって細分化、再分類されるようになり、従来の化学療法に加えて、分子標的剤による個別化治療（プレジジョンメディシン）が導入されています。さらにオプジーボ®を代表とする免疫チェックポイント阻害剤の開発によってがん免疫療法がエビデンスを有する治療法として確立するや、臨床導入数年にして従来の抗がん剤との併用による複合的がん免疫療法が日常診療の選択肢となっています。

今後は、がんの遺伝子情報を網羅的に調べ、治療方針を探索する「がんゲノム医療」も本格化し、がん領域における医療はますます個別化・多様化が進むと考えられます。患者さんにとって朗報である医療の進歩も、正しい治療選択や治療の安全性を保証し、患者さんの身体と心をサポート出来るだけの知識と技量の整った環境でなければその真価を発揮することは出来ません。我々薬剤師は、「薬」に関わるプロとしての専門性を活かして患者さんの診療に積極的に関わり、医師、看護師、その他の医療スタッフとの協働によってよりよい医療を構築するために日々精進に努めています。

研修会報告

令和元年度 病院栄養関係職員医療安全対策研修会

令和元年9月18日（水）山口県総合保健会館第1研修室において、病院栄養関係職員医療安全対策研修会が開催され、171名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。



森 あゆみ 氏



有富 早苗 氏

【研修会】

テーマ 「食中毒の予防について」

講師 山口県環境生活部生活衛生課

食の安心・安全推進班 食品衛生グループ

技師 森 あゆみ 氏

テーマ 「災害対策と食品ロスにしない備蓄のすすめ」

講師 山口大学医学部附属病院

栄養治療部 有富 早苗 氏

テーマ 「調理に繋げるための臨床栄養」

～塩分制限・腎臓疾患・胃腸術後食・低残渣食～

講師 光風園病院 栄養科 伊佐 恵美子 氏

徳山医師会病院 栄養管理科 末兼 佐知子 氏

済生会豊浦病院 栄養管理科 田尾 郁恵 氏

周南記念病院 栄養科 江村 初恵 氏



研修会風景



伊佐 恵美子 氏



末兼 佐知子 氏



田尾 郁恵 氏



江村 初恵 氏

～病院栄養関係職員医療安全対策研修会を開催して～



医療法人米沢記念
桑陽病院

栄養管理科 河本 絵水

9月18日に開催された研修会では、管理栄養士・栄養士や調理スタッフが参加し、医療安全対策について学びました。「食中毒の予防について」ではHACCP方式による衛生管理や食中毒発生状況、食中毒の予防等について、基本を再確認しました。「災害対策と食品ロスにしない備蓄のすすめ」では実際に被災された際の被害状況・問題点やその後生かされた対策、アクションカードの紹介、非常食の選び方、便利な非常用物品についてなどリアルな声を聞かせていただき、定期的な見直しが必要だと感じました。「調理に繋げるための臨床栄養」では塩分制限、腎臓疾患、胃腸術後食、低残渣食について、現場の調理スタッフの声や疑問を生かした具体的な内容となっており、業務にすぐに生かせる有意義な内容でした。

今回も企画にご賛同いただき、ご協力を頂きました病院協会様に心より感謝いたします。

事務長部会コーナー

令和元年度 山口県病院協会事務長部会 総会及び第1回研修会

令和元年6月28日（金）、新山口ターミナルホテルにおいて、令和元年度山口県病院協会事務長部会総会及び第1回研修会が開催され、90名の参加があった。

【総会】

議案第1号 事務長部会役員の改選について

任期満了に伴い、令和元年度山口県病院協会事務長部会役員は以下の通りとなった。

部会長 橋本 雅徳（周南記念病院 事務局長）
副部長 嶋崎 隆郎（都志見病院 事務長）
副部長 室田 義文（尾中病院 経営管理部長）
常任幹事 西原 寛之（周東総病院 事務長）
常任幹事 松永 正（山口赤十字病院 事務部長）
常任幹事 石田 憲司（下関リハビリテーション病院 事務長）

【研修会】

テーマ 「そもそも、今なぜ『働き方改革』なのか？
～病院における『働き方改革』とは～」

講師 フジムラ経営労務管理事務所 所長
社会保険労務士 藤村 徹 氏



総会風景



研修会風景

山口県病院協会後援の集会等のお知らせ

第16回 山口県ケアマネジメント研究大会

日時 令和元年10月26日（土） 10:00～16:30

場所 山口県セミナーパーク 講堂（山口市秋穂二島1062）

テーマ 「つながる・支える 医療介護の連携マネジメント ～尊厳ある看取りのために～」
基調講演、研究発表、シンポジウムなど

参加 介護支援専門員、福祉・保健・医療関係者、行政関係者、学生、その他

会費 会員：3,000円、一般：8,000円、学生：500円

【お問い合わせ先】 一般社団法人 山口県介護支援専門員協会事務局 担当：岡村・杉本
電話：083-976-4468

日本医療マネジメント学会 第18回山口県支部学術集会

日時 令和元年11月16日（土） 13:00～17:00

会場 山口県総合保健会館（山口市吉敷下東3丁目1番1号）

テーマ 「私たちの働き方改革」
一般演題発表、シンポジウム、特別講演など

参加 山口県内の保健・医療・福祉関係者

会費 2,000円

【お問い合わせ先】 済生会山口総合病院総務課 担当：阿部・片山 電話：083-901-6111

諸会議報告

令和元年度 第2回理事会

日 時 令和元年7月30日（火）17:00～18:00

開催場所 山口グランドホテル

【承認事項】

1. リレー・フォー・ライフ・ジャパン2019やまぐちの後援のお願いについて
2. 山口県病院協会役員業務分担表（案）について（下表のとおり）
3. 長門一ノ宮病院入会申込について

【協議事項】

1. 看護部長部会創設（お願い）について

【報告事項】

1. 山口県行政委員等の推薦について
2. 病院栄養関係職員医療安全対策研修会について
3. 令和2年度定時総会の開催日について
4. 県各種委員会等の結果報告について
 - 三浦会長
 - ・山口県予防保健協会定例理事会（5月30日）
 - ・令和元年度山口県看護協会通常総会（6月16日）
 - ・第100回山口県医療審議会医療法人部会（7月23日）
 - 名西常任理事
 - ・令和元年度山口県がん対策協議会（5月28日）
 - 茶川常任理事
 - ・令和元年度山口県看護職員確保対策協議会（7月11日）
 - 西田理事
 - ・令和元年度山口県公衆衛生協会第1回理事会・評議員会（7月4日）
 - 天津事務局長
 - ・山口県予防保健協会定例評議員会（6月20日）
 - ・令和元年度山口県配偶者暴力相談支援連絡協議会（7月3日）
 - ・令和元年度山口県男女共同参画推進連携会議（7月19日）

【その他】

令和元年度 第3回理事会

日 時 令和元年9月6日（金）15:00～

開催場所 山口グランドホテル

【承認事項】

1. 令和元年度山口県肝疾患コーディネーター養成講習会後援のお願いについて

2. 日本医療マネジメント学会第18回山口県支部學術集会后援のお願いについて
3. 第16回山口県ケアマネジメント研究大会への後援依頼について

【協議事項】

1. 夏季医療経営講習会について
2. オンライン化に伴う高額レセプトの症状詳記等について
3. 看護部長部会創設（お願い）について

【報告事項】

1. 令和元年度病院中堅看護師研修会について
2. 令和元年度病院看護師長研修会について
3. 第15回医療関係団体新年互礼会の開催期日の変更について
4. 令和2年度定時総会時の特別講演の講師について
5. 県行政委員等の推薦について
 - ・山口県死因究明等推進協議会委員
 - ・山口県献血推進協議会委員
副会長 馬場 良和（新任）
 - ・山口県社会福祉審議会委員
常任理事 玉木 英樹（新任）
 - ・公益財団法人やまぐち移植医療推進財団の評議員
 - ・山口県医療勤務環境改善支援センター運営協議会委員
常任理事 松谷 朗（新任）
6. 県各種委員会等の結果報告について
 - 神徳副会長
 - ・公益財団法人やまぐち移植医療推進財団
令和元年度定時評議員会（6月19日）
 - ・令和元年度第1回山口県医療対策協議会
専門医制度部会（8月2日）

【その他】

令和元年度 第2回情報管理委員会

日 時 令和元年9月13日（金）15:00～17:00

開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

1. 10月号の発行について
2. 新年号の発行準備について
3. その他

【一般社団法人山口県病院協会役員業務分担表】

総括	委員会	委員長	委員
三浦修 会長	総務	馬場 良和	玉木 英樹、茶川 治樹、村上 不二夫、清水 良一
	情報管理	神徳 眞也	林 弘人、名西 史夫、吉岡 春紀、木下 祐介
	地域医療	高橋 幹治	松谷 朗、西田 一也、桑田 憲幸、橋谷田 博

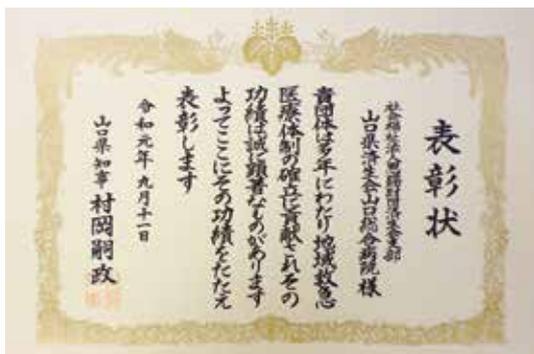
お知らせコーナー

山口県救急医療功労者知事表彰（山口県病院協会推薦）

多年にわたり、地域救急医療体制の確立に尽力された功績により表彰される山口県救急医療功労者知事表彰は、次の病院に決定し、9月11日山口県庁において伝達されました。

おめでとうございます。

済生会山口総合病院（病院長 城甲 啓治）



会員病院の新規入会

医療法人山陽会 長門一ノ宮病院 理事長 稲野 秀

会員等の異動

会員の変更

- ・山口リハビリテーション病院
- ・吉南病院
- ・岩国市立美和病院
- ・日良居病院

変更後

病院長 加藤 祥一
病院長 綿貫 俊夫
病院長 片山 寛之
病院長 河合 宏治

変更前

病院長 中安 清
病院長 大賀 哲夫
病院長 尾中 祥子
病院長 松尾 卓久

病院協会の主な行事予定

○10月2日	中堅看護師研修会	(会場：山口県総合保健会館)
○10月24日	看護師長研修会	(会場：山口県総合保健会館)
○11月8日	第4回理事会	(会場：山口グランドホテル)
○12月3日	看護補助者・介護職員研修会	(会場：山口県総合保健会館)
○12月13日	第3回情報管理委員会	(会場：新山口ターミナルホテル)
○1月4日	新年互例会	(会場：ホテルニュータナカ)
○1月17日	第5回理事会	(会場：山口グランドホテル)
○1月24日	四県病院協会連絡協議会	(会場：岡山)

編集後記

山口県病院協会は、令和元年5月の総会で新役員が選任され、それぞれの委員会活動が始まっております。会報の編集も今月号から、ベテランの林弘人先生、名西史夫先生、吉岡春紀先生と新人の木下祐介先生と私神徳眞也で担当させていただきます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます◆さて、先月号から表紙の題字「山口県病院協会会報」が変わったことにお気づきでしょうか？長く使わせていただいた会報創刊時の会長西田健一先生から、令和という新元号を迎えたことを期に、三浦修新会長へとバトンタッチさせていただきました。丁寧に書かれた題字の一文字一文字に、令和という厳しい時代に立ち向かっていかれる三浦修会長の決意の表れを感じます◆これからも私たちの山口県病院協会をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(神徳眞也)